

2022年8月1日

幼保連携型認定こども園 西神戸 YMCA 保育園 8月えんだより

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」

(テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章16～18節)

今年は、梅雨が早く終わり、酷暑と水不足は、どれくらい続くのだろうと心配していましたが、大雨により、多くの被害もでています。人知を超えて自然の現象は計り知れないものだ改めて感じています。感染症の制限も緩和され、一時収束に向かっていくのではないかと期待されましたが、反対に感染の急拡大の大きな波を感じますと、心も参ってしまいますね。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい」と聖書を通じて、神様は私達に勧めますが「喜べ、祈れ、感謝せよ」と言われても「そうは言われても…」と困惑する方も多いのではないかと思います。喜ぶ時に喜びますが、そうでない時もありますし、困った時には祈りますが、「絶えず」と言われても困ります。感謝する思いは、時によって違いますし、「どんなことにも」と命ぜられても困ります。ましてや今起きている災禍や自然災害が頻繁に起こり、先の見えない今、どうしてそんなことができるのでしょうか。

この手紙が書かれたのは、紀元50年頃、キリスト教徒への大きな迫害が目前に迫る中、信徒達に向かって語られたのでした。喜び等どこにあるのか、祈り等何の役にたつのか、どこにも感謝することが見出せない時、その時にこそ、喜び、祈り、感謝せよ」と言われたのです。神様が世の全ての善も悪をも受けいれて、人々を赦してくださるように、私達もまた、出会う日々の苦難も受けいれて、人を赦しあう時にこそ、喜びに包まれ、祈りと感謝の思いが生まれるというのです。「全てのことを働かせて、益としてくださる」「試練と共に、脱出の道も備えてくださいます」と聖書が語るように、神様の目には、人々の苦難を寛容に見ながら、必ず益となるようにしてください。

「赦す」「赦しあう」ことは、子どもが育つ時にとっても大切なことです。子どもは「赦してくれる存在」があることで、心の内から行動に移すことや思いや考えを深めていくことができます。子ども同士の感情がぶつかりあう時にこそ、「赦しあう心」が互いに育ちあうといっても過言ではありません。子ども達だけではなく、私達大人が、互いを赦しあうことが、子ども達への大きな成長へと誘うことにつながると信じて日々を送っていきたく願います。猛暑も感染症も必ず過ぎていくことを願い、日々健康に気をつけて過ごしていきましょう。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

8月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	たのしい	たのしむ
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>*夏の生活をゆったり健康に過ごす。</li> <li>*周囲の人やモノとふれあい、興味を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*平和を考え、願い、共に祈る。</li> <li>*家族や保育者とゆったりとした時間を過ごす。</li> <li>*夏の遊びを大胆に楽しむ。</li> </ul>
讃美歌	<p>どんどこどんどこ こども改 106</p>	<p>しずかに しずかに こども改 104</p>